



京都総局
〒600-8412
京都市下京区烏丸通仏光
寺上ル二帖半敷町655
産経京都丸ビル7階
TEL075 (351) 9145
FAX075 (341) 6610

「サブ3・5目指す」

山中教授 京都マラソンへ抱負

京都マラソン（来年2月17日）を約2カ月後に控える、応援大使を務める京都大IPS細胞研究所所長の山中伸弥教授（56）とタレントの中村静香さん（30）が11日、京都市役所で記者会見

を記録。「2年ぶりのフルマラソンを走る。サブ3・5を目指す」と宣言した。門川大市長は「今年起こったさまざまな災害に思いをはせながら、復興への願いを掲げて取り組む。日本を代表するマラソンの一



記念撮影に应じる（右から）山中教授、門川市長、中村さん、京都市中京区

を記録。「2年ぶりのフルマラソンを走る。サブ3・5を目指す」と宣言した。門川大市長は「今年起こったさまざまな災害に思いをはせながら、復興への願いを掲げて取り組む。日本を代表するマラソンの一

つとして評価が高まっている」と話した。また、西脇隆俊知事が現職知事として初めて参加することを発表。西脇氏個人としては3回目のマラソンだという。会見後に取材に応じた山中さんは、本庶佑京都大特別教授について、「ザ・ノーベル賞という感じの格好いい先生。日本の基礎研究の実力を示された」と喜び、「これに触発されてたくさんの方の若手の医学部出身者が研究の道に進んでほしい」と話した。

また、マラソンと研究の共通点について問われると「両方時間がかかるが、努力は報われるという成功体験をマラソンで得て、研究を頑張る」と話した。（田中幸美）

塔南高校生 書道パフォーマンス

年末の交通事故防止府民運動（20日まで）に合わせて京都市立塔南高校（南区）書道部の部員らが、イオンモール京都桂川（同区）で書道パフォーマンスを披露し、交通安全を願った。

部員らは、オリジナルの楽曲に合わせて踊りを交えながら、縦約3・5メートル、横約5メートルの巨大和紙に「光輝燦然」「一隅を照らす」などと力強く書いた。パフォーマンスは「百鬼夜行をテーマに、交通安全を願う心、妖怪を妖怪に見立て、太陽の光が妖怪を追い出し、正しい方向へと導く様子」を表現したという。部長の2年生、松本梢さん（17）は「交通安全を守る強い心を持ってほしい」という願いを込めました」と話した。作品は年末まで、南署1階のコミュニティ・ルーム内に飾られている。



力強く文字をしたための書道部員ら。後ろでは音楽に合わせて踊りを披露している。＝京都市南区

交通安全願い「光輝燦然」

廃プラスチック新たな活用策



壁紙や節電シートに再利用

廃プラスチックを炭素化し、エアコンのフィルターや壁紙へ応用することに成功したと、龍谷大と炭素素材製品の研究開発を行う大木工芸（大津市）が発表した。プラスチックごみによる海洋汚染などの問題が深刻化する中、プラごみの新たな活用策として期待される。（南里咲）

龍谷大と大木工芸 手法を確立

ペットボトルのみから活性炭を作り出す技術はすでに実用化されているが、今回はペットボトルだけでなくプラスチックや樹脂も含む廃プラスチックから炭素素材を作り出し、再利用する手法を確立した。

プラスチックは炭素や水素、添加物でできているが、水蒸気を当てることで炭素以外の物質を除去する。こうして作られた活性炭を消臭剤や融雪材の製造に使用できるようなった。

また、壁紙や保冷車に使用される同社の節電シートにこの活性炭を活用することで、熱伝導効率の向上やコストダウンにも成功。冷暖房効果を最大限に生かし、環境負荷を低減するシートの性能をより高めることにつながった。

龍谷大の青井芳史教授は「廃棄物を付加価値の高い材料に変えて、新たな道をついていく」と話している。

職員が70万円着服

宇治市が宇治市治政

宇治市が宇治市治政を担う宇治市治政処理公社（同市）は11日、経理を担当する男性主任（44）が公社の資金約700万円を着服していたと発表した。

公社によると、主任は平成28年1月・30年11月、廃棄物を持ち込んだ処理業者から受け取った処分費約600万円（約2400件）や廃棄物から取り出した金属などの販売代金約100万円（約300件）を着服。データを改竄して帳尻を合

わせていた。別の職員が廃棄物の受け付けデータが存在しないことに気付いて発覚した。

主任は公社の聞き取りに対し関与を認め、金銭は生活費やローンの返済に充てたと説明。複数の職員も主任から金銭を受け取ったなど話しているという。公社は業務上横領罪で宇治市が宇治市治政

国交省など 全国初の実証実験

紅葉シーズンを迎えている京都・嵐山で、スマートフォンのWi-Fi（ワイファイ）データを捕捉して混雑状況を予測し、インターネット上で公開する全国初の実証実験を国土交通省などが実施している。混み合わない日時やエリアに観光客を誘導し、混雑の分散化につなげたい考えだ。

実験では、嵐山地域を渡月橋や竹林の小径など8エリアに分類。13カ所にセンサーを設置しており、Wi-Fiの設定がオンになっているスマートフォンなどを検知し、人数や滞在時間のデータを集めている。

専用サイト「嵐山快適観光ナビ」で集計されたデータを基に予測を公開。訪問予定の日時とエリアを選択すると、1時間ごとの混み具合を確認できる。嵐山全域でどこが混雑しているかも表示されるほか、ゆとりをもった観光ができる時間帯やルートも案内される。

国交省が京都市や市観光協会と連携し17日まで実験を行う。効果が確認できれば、市は他の観光地での導入も検討する。

嵐山の混雑状況 ネットで確認

府北部の「冬の味覚」 特選京鮭販売始まる



新たな府北部の「冬の味覚」として府漁業協同組合がブランド化を進めている「特選京鮭」の販売が今年始まった。舞鶴市の道の駅「舞鶴港とれとれセンター」では特選のサワラが店頭に並び、観光客らが味わっている。

府北部では平成18・20・24年にサワラの漁獲量が日